

[国内に発生したプラムポックスウイルスの効果的な撲滅と再侵入阻止技術の開発 (実用技術開発事業)]

## ウメ輪紋ウイルス (PPV) 発生圃場における有翅アブラムシ類の飛来動向 (2012 年)

加藤綾奈・星 秀男・小野 剛・小谷野伸二・野地喜徳\*  
(生産環境科・\*農振事)

---

**【要 約】** ウメ圃場に飛来する有翅アブラムシは、誘殺数は年次により異なるが、4～6月、8～9月および11月の年3回の増加期がある。また、昨年同様、単発的ながら、1～3月の低温期にも飛来が認められる。

---

### 【目 的】

ウメ輪紋ウイルス (PPV) の拡散防止には、有翅アブラムシ類の動態に基づく防除対策の構築が必要である。そこで、ウメ圃場における周年を通じた有翅虫の飛来状況を調査し、PPV 防除対策上の基礎的な知見とする。

### 【方 法】

2012年1月～11月に、青梅市内のPPV発生4圃場(青梅市A～D)と、PPV未発生の農総研立川および同青梅内の計6ヵ所のウメ圃場に、1圃場あたり1ヵ所、黄色粘着板(ホリバー)を行灯型に4枚設置した。粘着板は毎週2日間設置し、誘殺された有翅アブラムシ類の頭数を計測した。なお、調査は各圃場内のウメ樹が伐採された時点で終了とした。

### 【成果の概要】

1. 各圃場における誘殺消長：1～3月においては、調査6圃場中4圃場で、単発的ながら1～10頭(平均3.0頭)の誘殺が認められ、昨年と同様に冬季から早春季にかけてのアブラムシ類の飛来が確認された。青梅市A～Dおよび農総研立川では、4月中旬から誘殺数が急激に上昇し、6月中下旬にかけてピークとなった後、7月中旬に向かって減少した。この期間の誘殺数は、5圃場で最高10～61頭(平均14.9頭)であった。農総研青梅では、4月中旬から増減を繰り返しながらも、7月中旬まで増加傾向が継続し(最高319頭)、上記5圃場とは誘殺数およびその推移がやや異なった。8月～9月上旬にかけては、各圃場とも一時上昇傾向を示したが、9月中旬以降10月中旬まで誘殺数は急激に低下した。11月に入ってから、伐採が行われていない青梅市C、農総研立川および同青梅では、例年と同様に再度誘殺数が上昇に転じた(図1)。
2. 2010、2011年との動向比較：青梅市A～Dおよび農総研立川において、1月以降8月までの時期的な増減動向は2011年とほぼ同様の傾向であったが、4～6月の誘殺数は、昨年度比で約11.3%と極めて少なかった。9月以降の発生消長は、過去2年間とほぼ同様の傾向を示した(図1)。
3. まとめ：有翅アブラムシ類の飛来は、昨年と比較し、4～6月の誘殺数が極めて少なく、飛来数は年次により大きく異なることが明らかとなった。しかし、4～6月、8～9月および11月の年3回の増加期があり、頭数は少ないが、1～3月にも飛来することが確認され、誘殺数の時期的な増減傾向は、過去2年とほぼ同様であった。以上、3年間の継続調査において、青梅市のウメ園における有翅アブラムシの発生動向はほぼ解明されたものと考えられる。

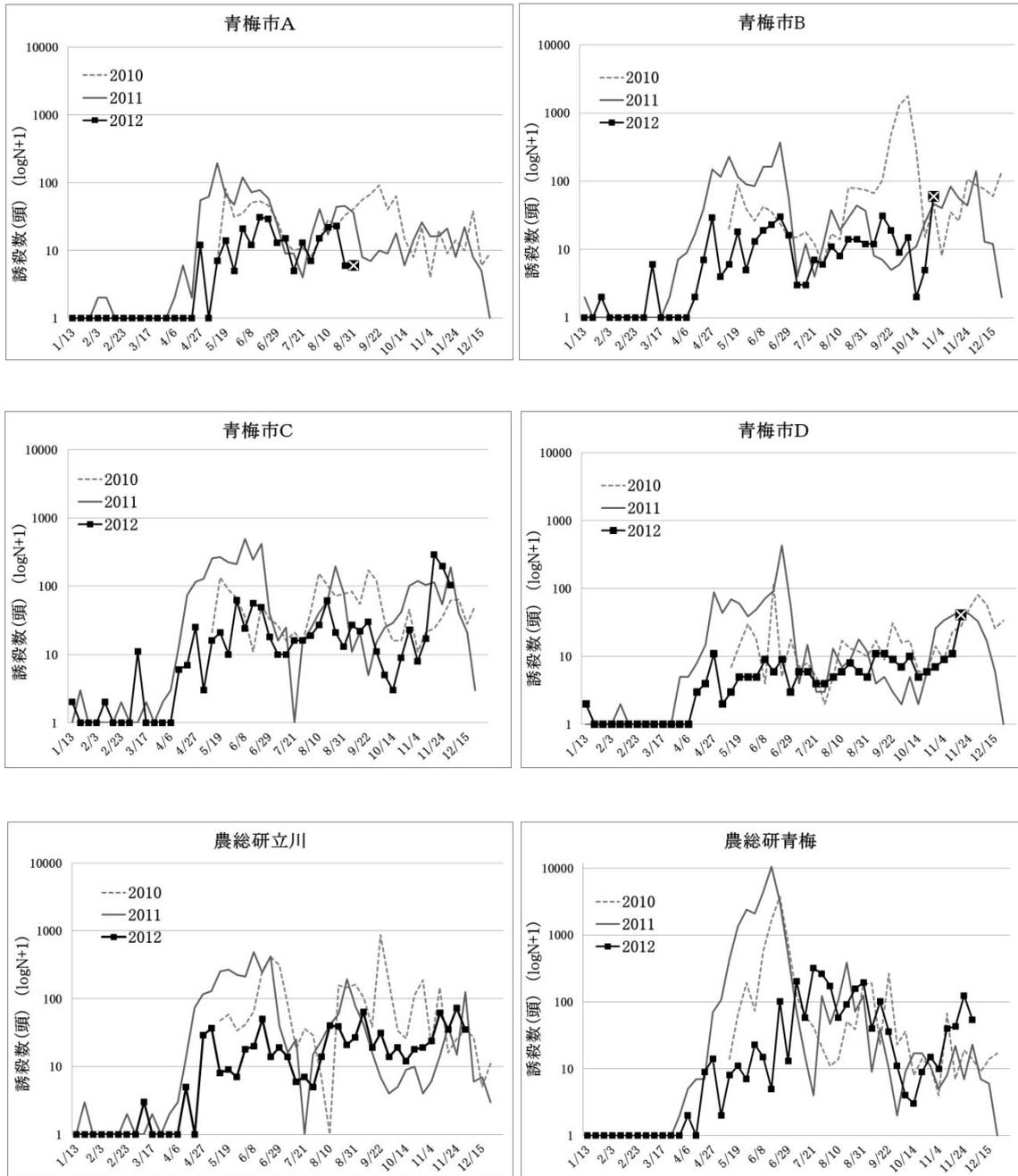


図1 各ウメ園場における有翅アブラムシ類の誘殺消長  
 (誘殺数は粘着版4枚の合計数, ☒は2012年の伐採を示す)